

☰ 安倍晴明 ☷ (延喜二十一年・921～寛弘二年・1005)

近年は超能力者として人気沸騰の^{おんみょうじあべのせいめい}陰陽師 安倍晴明、本年はちょうど没後 1000 年です。下に年表を示しましたが、彼が歴史に登場するのは藤原摂関政治が始まろうとしていた頃です。内裏が焼亡して、時の村上天皇が焼失した霊剣の再鑄造を命じた、そのメンバーの一人でした。当時晴明は40歳で^{なかつかさ}中務省陰陽寮の^{とくごうしょう}天文得業生、いわば宮内庁のような役所の天体観測を管掌する部署の特待生であったと、後の右大臣・藤原宗忠の日記(『中右記』)に記されています。

遣唐使の停止(894)・・・菅原道真による建議 菅原道真の大宰府左遷(901) → 死去(903) 紀貫之らが『古今和歌集』を撰上(905) [中国]唐が滅び(907)、五代十国に入る 常陸国で平将門の乱が勃発(935) 空也が念仏を始める(938)・・・浄土教の始まり 平安京の内裏が初めて焼亡する(960) → [中国]宋(北宋)の成立(960～1127) 藤原実朝が関白となる(967)・・・摂関の常置 源信が『往生要集』を著す(985)・・・地獄と極楽 藤原道長に内覧の宣旨(995)・・・実質的な摂関 清少納言『枕草子』の成立(1000) 和泉式部『和泉式部日記』の成立(1004) 紫式部『源氏物語』の成立(1011)	晴明誕生？(921?) 末法思想が流行し始める 晴明が史書に初登場(961) 天文得業生 晴明、天文博士となる(972) 正七位 晴明、正五位に昇進(993) 晴明、蔵人所陰陽師となる(995) 晴明、主計助となる(997) 晴明、道長のために相地を行う(1004) 晴明死去？(1005、85歳) 従四位を賜る
--	--

中務省は天皇の側近事務を司る事務方と、専門技術官として陰陽・天文・暦・漏刻(時刻)の4部署があります。陰陽師とは、^{ぜいちく}筮竹を使う占いや^{そうち}相地(土地の気を読む)を管轄する専門技官です。陰陽博士は、その技術や知識を学生(陰陽生)に教授し、専門技官を育成する役目を持ちます。

陰陽道は日本独自の用語であって、古代中国にも朝鮮半島にも存在はしませんが、中国伝来の陰陽・五行思想がルーツで、天体の運行や自然万物の現象などから吉凶禍福を占断するわけです。「易」も同じ思想であり、中国の五経の一つである『易経』は陰陽・五行のバイブルとも呼ばれます。有名な孔子などは、これを尊び活用するばかりでなく、思想をさらに肉付けしたと言われます。

陰陽五行思想は仏教公伝の頃に輸入され、かの聖徳太子の冠位十二階や憲法十七条にも影響が見られるそうです。後の天武天皇は統治のための思想や理論として採用し、初めて陰陽寮を設置しました(676年)。中国をまねた制度ですが、中国では天文や暦が技術的に磨かれたのに対して、日本では技術的な吸収が十分に進まないまま、宗教的な側面(占いや祈祷)が強くなったようで、陰陽師と言えば、いきおい呪術的イメージが漂うことになってしまったようですね。

さて、晴明は85歳の長寿でしたが、歴史への初登場が40歳で、それ以前は全くの不明です。天文博士の履歴はあるが陰陽博士のそれは無く、陰陽寮から主計助(今の財務省次官か)に転出もしています。尚、^{くろうどころ}蔵人所(天皇直轄の部署)に移籍したことや、権力者の道長専属の陰陽師になったとも伝わるなど、晩年の頃には個人として高い評価を得たのかも知れませんね。そもそも陰陽師の職務は国家機密に属するので、不明な点があっても不思議ではないわけですが……

文学の中の晴明

例えば、清少納言『枕草子』に下記の一節があります。

こころゆくもの、……(中略)……物よくいふ陰陽師して、河原にいでて呪詛のはらへしたる。

鴨川の河原で呪いから逃れるためお祓いがされ、清少納言も見物したようです。陰陽師の声も淀み無くよく聞こえ、とても気持がよいと述べています。河原で行う理由は、まじないで使ったひとがた人形の紙や木片を川に流すためでしょうね。でも残念ながら、陰陽師の名は不明です。

次いで『紫式部日記』、「里帰りした後の出産に僧侶と陰陽師が出仕した」との記述があります。元来、陰陽師の祈祷は宮中内に限られたはずなのですが、藤原氏の進出に伴って貴族の屋敷でも行われるようになったわけです。そうすると、女房として貴族の屋敷に出仕していた清少納言や紫式部などは、直接に陰陽師に直面することは無くとも見かける機会があったと想像されます。ところが、ここでも陰陽師が誰なのかは判明いたしません。まことに残念ですね。

明らかに晴明の名が分かるのは、『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』などの説話物語です。中国やインドを含め、古今の伝承が記されています。天皇や貴族は勿論、下級役人・僧侶・武士・一般庶民など、あらゆる階層が登場し、当時の世相も鮮やかで、風刺や仏教的な教えも濃厚です。その魅力は後代に及び、芥川竜之介の『羅生門』・『鼻』・『芋粥』は説話に素材を求めたものでし、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)や劇画漫画家・白土三平なども影響を受けたそうです。

さて、ここでの安倍晴明の姿は、まさに近年に流行った小説・漫画・映画の世界そのまま、悪霊や物の怪と闘う超能力者、容姿端麗のスーパー・スターとして八面六臂の活躍をしています。しかし、地道な役人像の晴明がある一方で、この英雄のような扱いは何なのでしょうか？

晴明に限らず陰陽師そのものが英雄視された根本要因は、社会不安が続いたということです。王朝絵巻のような宮中とは逆に、市中では災害・飢餓・疾病に苦しむ人々で溢れ、人心は荒廃し、「百鬼夜行の世」と呼ばれました。1052年には末法の世に入ると怖れられ、権勢を誇った藤原頼道(道長の長男)も例外ではなく、まさにこの年に宇治の別荘を寺に変えて、平等院としています。翌年に落成した鳳凰堂は、この世に阿弥陀浄土世界の再現を図ったものとして有名です。

また、藤原摂関家による専制政治、さらにこれを牽制しようとした白河上皇の院政は、朝廷の直轄ではない私有地＝荘園を著しく増大させました。朝廷の税収に直結しないため、税収不足を招きますが、多くの役所が機能不全に陥りました。官僚の腐敗も顕著で、ことに地方は荒廃し、それと反比例して武士が台頭してきます。政局の混乱がますます不安をかきたてたようです。

天皇・朝廷や貴族らの生活において、この時代に顕著な禁忌(物忌み)というものがありませんでした。陰陽師は天皇の公式行事に限らず、私的な生活にも関わっています。先述の出産もそうですが、例えば参詣の日時や方位についても吉凶を観ることがあります。その結果、不吉な兆しがあれば外出を控えるという行動＝物忌みが行われたのです。因みに、天元5年(982)の円融天皇の場合、一月～三月の間に29回も物忌みを行っていますし、ほぼ同時代の道長なども20年間で物忌みが300回以上にも及び、多い年は50回、多い月は10回を超えていますね(『御堂関白記』)。

☰ 晴明を英雄に望む者 ☰

陰陽師が天皇の生活を左右し得る存在と分かり、藤原氏などは戦略的な活用を企んだようです。吉凶占いが、藤原氏の意向通りになればよいわけですから。陰陽師側でも、権力者の威を借りて活躍の場を広げられると踏んでも不思議ではないですね。事実、優れた陰陽家を輩出できまして、**賀茂忠行・保憲・光榮**の父子3代は有名です。ことに保憲は、彼は晴明の師匠格なのですが、**光榮には暦道を、晴明には天文道を伝えて、賀茂・安倍両氏の活動分野を分けました**。この結果両氏による陰陽道界の指導統制の基礎が固まりました。つまり、この両氏で陰陽道界を制したということです。安倍家は晴明没後も繁栄は続き、院政期には既に賀茂氏を圧倒するようになり、さらに室町期になると嫡流が**土御門家**を称し、陰陽道の宗家たる存在となったのです。

役人でない在野の陰陽師たち(法師陰陽師と呼ばれる)も居ました。彼らは、朝廷の財政破綻で失職した者、儒教・佛教などの宗教者を兼ねる者、芸能民を兼ねる者など、理由や出自は様々です。彼らにしても生計を立てるためには、あらゆる役回りを演じたに違いありません。余談ながら、「モグリ」と言えば失礼ですが、後に**鎌倉新仏教**を興隆させた祖師たちも、このような在野層から生れています。彼らは国家のためではなく個人の救済を唱えたので、頼るすべの無い庶民からの支持は絶大でした。おそらく、似たような理由で法師陰陽師も歓迎されたであろうと思います。庶民にしても祈祷やお祓いをしてくれればよいので、さして素性は問題にならないでしょう。

さて祈祷やお祓いによる成功事例が現れると、法師陰陽師は「自分は安倍晴明の末裔だ」とか、「安倍宗家の秘法だ」などと、もっともらしく吹聴、つまり、箔を付けようとしたのではないかと。それなら晴明の存在はうってつけだし、むしろ晴明自身の功績として喧伝したかも知れません。晴明伝説は、藤原氏・安倍家・法師陰陽師の3者によって、誘導された可能性がありますね。☆

江戸時代の陰陽師について触れると、陰陽道界も幕府の統制下に置かれました。具体的には、**土御門家を宗家とする許可制**です。**霊元天皇**が土御門家に綸旨「**陰陽道支配のこと**」を出し、**将軍綱吉**がこれを朱印状で保証しました(1683年)。即ち、法師陰陽師も金を払って土御門家から免許状を得なければ活動が許されないわけです。土御門家は支配力を強め、財政も豊かになる。もちろん幕府は、そこから上納金を得る仕組みでした。これに承服できない一部の法師陰陽師は、無免許のまま辻占いに変身したとも、修験者として山に入ったとも伝わっています。ともあれ、幕府の統制下に組み込まれながらも、陰陽道・陰陽師というものは永く継承されたわけです。

ところが、明治時代に入って情勢が一変します。近代化を急ぐ明治維新政府は、その柱として神道国教化を据え、**明治四年(1871)に陰陽道も土御門家による免許状の発行も停止**したわけです。こうして天武天皇が陰陽寮を設置して以来、1200年の歴史を有してきたものが消えたのです。

昨年、火星が大接近して話題になりました。夜空では、火星と月も至近距離にありましたね。これが晴明の時代であれば凶兆だと大騒ぎになったはずですが。現にイラク戦争が始まりました。現代の科学万能の世に居る私たちにとって、陰陽道(陰陽師)を意識する機会はずりありません。しかし、結婚式は大安吉日を尊び、人が亡くなれば忌中と称し慎んだ生活を送るのが普通です。制度的にはずっと以前に死んだはずのものが、奥深いところでは今も息づいているのです。